（別紙様式４）

【職業実践専門課程認定後の公表様式】

2023年7月31日※1

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地
専門学校坪内総合ビジネスカレッジ	1986年7月31日	坪内　浩一	〒690-0001 島根県松江市東朝日町74 （電話）0852-26-8000
設置者名	**設立認可年月日**	**代表者名**	**所在地**
学校法人坪内学園	1969年11月8日	坪内　浩一	〒690-0001 島根県松江市東朝日町74 （電話）0852-31-1500

分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士
工業	工業専門課程	IT学科	2010年文部科学省告示	－

学科の目的	ITエンジニアに必要な高い応用力を身に付け、システム開発の経験を積み、最新のIT技術の利用方法だけでなく、社会人として必要なコミュニケーション能力を身に付け、即戦力となる人材を育成する。
認定年月日	2014年3月31日

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
2　年	昼間	70	34	34	2	0	0
							単位

生徒総定員	生徒実員	留学生数（生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数
70人	64人	0人	3人	4人	7人

学期制度	■前期：4月1日～9月30日 ■後期：10月1日～3月31日	成績評価	■成績表：　有 ■成績評価の基準・方法 定期試験の点数と平常点で評価する。 評価基準は以下の通り。 「A(優良)」80～100 「B(良)」70～79 「C(可)」69～60 「D(不合格)」59以下）
長期休み	■学年始：4月1日～4月6日 ■夏　季：7月26日～8月31日 ■冬　季：12月27日～1月8日 ■学年末：2月15日～3月31日	卒業・進級条件	卒業条件：1700時間以上出席、62単位以上取得、卒業基準検定合格、学納金 進級条件：900時間以上出席、32単位以上取得、進級基準検定合格、学納金
学修支援等	．　有 ■個別相談・指導等の対応 担任などによる面談・保護者面談を行っている。又、必要と思われる学生に対し、随時、個別面談を行っている。	課外活動	■課外活動の種類 ボランティア活動・学園祭等の実行委員会等 ■サークル活動：　有
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等（2022年度卒業生） IT関連企業 ■就職指導内容 就職に関する科目をカリキュラムに含み、就職ガイダンス開催及びビジネスマナー、履歴書や面接の指導を実施 学生支援課による就職指導のバックアップ体制 ■卒業者数　：　36　人 ■就職希望者数　：　28　人 ■就職者数　：　28　人 ■就職率　：　100　% ■卒業者に占める就職者の割合：　77.8　% ■その他 進学者数2人 本校特別聴講生2人 （　2022 年度卒業者に関する 2023年5月1日 時点の情報）	主な学修成果（資格・検定等）※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 （2022年度卒業者に関する2023年3月1日時点の情報） 資格・検定名 / 種 / 受験者数 / 合格者数 情報処理技術者試験基本情報 / ③ / 36人 / 3人 Ruby技術者認定試験 / ③ / 19人 / 8人 情報検定 / ③ / 36人 / 26人 ビジネス能力検定 / ③ / 36人 / 36人 ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他（民間検定等） ■自由記述欄
中途退学の現状	■中途退学者　8 名　■中退率　10 % 2022年4月1日時点において、在学者80名（2021年4月1日入学者を含む） 2023年3月31日時点において、在学者72名（2023年3月31日卒業者を含む） ■中途退学の主な理由 進路変更等 ■中退防止・中退者支援のための取組 欠席が無断で3日続いた場合は、保護者に連絡をして、必要な場合は面談を行う。 学生に声掛けすることを積極的に取り組む。		
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度：　有 ①学校推薦型選抜入試 指定校推薦型（入学金50,000円～100,000円免除:初年度のみ） ②学校推薦型選抜入試 一般推薦型（入学金20,000円免除:初年度のみ） ③坪内学園修学支援金（授業料の一部50,000円～100,000円を付与、10名程度/2年進級時に新たに採用募集・審査あり） ④一般選抜入試併願型（併願料30,000円は入学金もしくは授業料の一部に充当する） ⑤父母兄弟姉妹奨学金制度（入学金の一部50,000円免除:初年度のみ） ■専門実践教育訓練給付：　給付対象　※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載		
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価：　無		
当該学科のホームページURL	https://bijisen.sctg.ac.jp/		

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

（1）教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携に関する基本方針

企業等との連携を図ることにより社会の変化に伴う業界のニーズ等を把握し、現場の情報や意見を参考にカリキュラムを編成する。実践的な授業を行い、就職先にて即戦力となる人物を育成する。

（2）教育課程編成委員会等の位置付け

教職員研修の実施結果を踏まえ、学科教員でカリキュラムの見直し案を作成。加えて、年2回開催される教育課程編成委員会にて図り、業界の動向等の情報収集及び意見交換を行う。組織図としては校長の直下に教育課程編成委員会を設置し、企業等と密接かつ組織的な連携体制を確保する。

（3）教育課程編成委員会等の全委員の名簿

2023年6月1日現在

名　前	所　　属	任期	種別
持田　朝子	一般社団法人島根県情報産業協会 株式会社システム工房エム	2023年4月1日～2025年3月31日（2年）	①
姜　忠宏	株式会社イード	2023年4月1日～2025年3月31日（2年）	③
三島　章	株式会社ペンタスネット	2023年4月1日～2025年3月31日（2年）	③
坪内　浩一	学校法人坪内学園　理事長 専門学校坪内総合ビジネスカレッジ　校長	2023年4月1日～2025年3月31日（2年）	
杉原 隆史	専門学校坪内総合ビジネスカレッジ　副校長	2023年4月1日～2025年3月31日（2年）	
井上 貴寛	専門学校坪内総合ビジネスカレッジ　IT学科 学科責任者	2023年4月1日～2025年3月31日（2年）	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、
地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）
②学会や学術機関等の有識者
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

（4）教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年2回開催し、開催時期は適時行うものとする。

（開催日時）
2018年度　・第1回　10月18日　14:30～17:30　・第2回　2月25日　15:30～16:30
2019年度　・第1回　10月21日　14:15～15:15　・第2回　3月27日　9:20～10:20
2020年度　・第1回　10月6日　15:30～16:30　・第2回　3月8日　15:00～16:00
2021年度　・第1回　12月6日　10:45～11:45　・第2回　3月7日　14:15～15:30
2022年度　・第1回　10月5日　16:30～17:30　・第2回　2月21日　10:00～11:20

（5）教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

「2年間では、RubyとJavaの両方を高いレベルで習得することは難しい。1つの言語を基礎からしっかりと学ぶことが重要である。」という意見から、Rubyコースでは1年次～2年次まで一貫してRubyの授業を行うことで1つの言語を基礎からしっかり学べるカリキュラムに変更した。
「地元への就職を考えるとRubyを知っている学生は評価できる。IT業界への就職率を向上させるために、業種や職種の理解を深める必要がある。」という意見から、地元就職を見据えて1年次は全コースRuby、2年次はRubyコースはそのままRuby、RubyOnRailsに発展させてRubySilver取得に向けた授業を行っている。さらに、Ruby、RubyOnRailsでは地元IT企業のRubyエンジニアに非常勤講師としてお越しいただき、より現場に近い知識を身に着けられるようにした。スマホアプリコースはJava、Androidの開発を行い、より言語に特化したカリキュラムに変更した。
「地元企業で活躍する多くの卒業生との情報共有や連携による、在校生の職業観の育成につなげてはどうか」という意見より、卒業生と在校生が交流し仕事内容・就職活動の経験談について交流の出来る卒業生座談会を企画・実施した。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

（1）実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

職業理解を深めるとともに、学生の就業意欲の向上を図る。また、企業等から求められる資格や能力を意欲的に習得する機会とする。

（2）実習・演習等における企業等との連携内容

各企業でインターシップ実習を実施し、現場での実務・マナー等を実習レポート提出させ、加えて企業側の評価をフィードバックする。

受入施設の責任者又は担当者と実習実施前に打ち合わせを行い、実習内容の確認をするとともに、学習成果の評価指標等について定める。実習期間中は、指導担当教員が実習先を訪問し、学生の学習状況を直接確認するとともに、実習担当者との情報交換を行う。実習終了時に実習先から学習成果の評価を記載した評価表及び実習出席簿の提出を受け、それらをもとに担当教員が成績・単位認定を行う。

（3）具体的な連携の例

科　目　名	科　目　概　要	連　携　企　業　等
企業体験実習Ⅰ	各企業でインターンシップ実習を実施する。現場での実務を通して業界の実際を知り、職業人としてのマナーの習得を目指す。	イード、エクスウェア、システム工房エム、コミクリ、リコージャパン
企業体験実習Ⅱ	各企業でインターシップを実施する。これまで学んできた知識と技術を元に、現場での実務を通して業界の実際を知り、職業人としてのマナー習得を目指す。	イード、エクスウェア、システム工房エム、コミクリ、リコージャパン

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

（1）推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

教員に対し、企業・関係施設・業界団体等との連携を通じ、現場の最新の知識及び技能を習得させるとともに、職務の遂行に必要な能力及び資質等の向上を図ることを目的とした研修のために年間計画を立てて実施していくことを基本方針とする。

（2）研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名：「松江City Hack vol.4【ハッカソン】」（主催：㈱パソナテック）
期間：2021年12月4日（土）～5日（日）

②指導力の修得・向上のための研修等

学科内で月1回の教員研修を実施し、授業及び資格取得の指導力向を図った。

（3）研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名：「RubyWorldConference2021」（主催：Rubyアソシエーション）
期間：2021年12月16日（木）

②指導力の修得・向上のための研修等

学科内で月1回の教員研修を実施し、授業及び資格取得の指導力向上を図る。

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

（1）学校関係者評価の基本方針

教育活動その他の学校運営について、目標の達成状況や取組の適切さなどを評価し、学校としての組織的、継続的な改善を図ること、評価結果の公表・説明責任を果たし、企業、保護者、地域住民などから理解と参画を得て、学校・企業・団体・家庭・地域の連携協力による学校づくりを進めること、評価結果に応じて改善措置を講ずることにより、一定水準の教育の質を保障し、その向上を図ることを目的とし、基本方針とする。

（2）「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
（1）教育理念・目標	基準1教育理念・目標・育成人材像
（2）学校運営	基準2学校運営
（3）教育活動	基準3教育活動
（4）学修成果	基準4教育成果
（5）学生支援	基準5学生支援
（6）教育環境	基準6教育環境
（7）学生の受入れ募集	基準7学生の募集と受け入れ
（8）財務	基準8財務
（9）法令等の遵守	基準9法令等の尊守
（10）社会貢献・地域貢献	基準10社会貢献
（11）国際交流	留学生等の交流をはじめとした国際交流の情報の提供と意識改革の実施等

※（10）及び（11）については任意記載。

（3）学校関係者評価結果の活用状況

授業が受動的であったという意見から、アクティブラーニングを取り入れた能動的な授業になるよう研究し、授業内容の改善を行っている。
退学者について、精神面での問題による退学防止のため、スクールカウンセリングをもっと受けられるようにするとよいとの意見をいただいた。各教室にスクールカウンセラー来校日の案内を掲示して周知し、精神的不安がみられる学生にはカウンセリングの提案をするなど、効果的な活用に努めている。

（4）学校関係者評価委員会の全委員の名簿

2023年7月31日現在

名　前	所　　属	任期	種別
小村　　隆	松江市役所　総務部	2023年6月1日～ 2025年5月31日（2年）	地域の地方公共団体の関係者
森脇　建二	一般社団法人 島根県経営者協会	2023年6月1日～ 2025年5月31日（2年）	学校の専門分野における業界関係者
舟木　誠一	一般社団法人 島根県自動車整備振興会	2022年6月1日～ 2024年5月31日（2年）	学校の専門分野における業界関係者
朝比奈　圭	一般社団法人 島根県歯科医師会	2023年6月1日～ 2025年5月31日（2年）	学校の専門分野における業界関係者
小谷　直也	公益財団法人 島根県防犯連合会	2023年6月1日～ 2025年5月31日（2年）	学校の専門分野における業界関係者
増田　省一	公益社団法人 島根県獣医師会	2023年6月1日～ 2025年5月31日（2年）	学校の専門分野における業界関係者
持田　朝子	一般社団法人 島根県情報産業協会	2023年6月1日～ 2025年5月31日（2年）	学校の専門分野における業界関係者
三島　琴美	社会福祉法人　坪内宝珠会 たまち乳児保育園	2023年6月1日～ 2025年5月31日（2年）	学校の専門分野における業界関係者
諏訪　方宣	社会福祉法人 松江市社会福祉協議会	2022年6月1日～ 2024年5月31日（2年）	学校の専門分野における業界関係者
永島　一雄	学校法人　永島学園	2023年6月1日～ 2025年5月31日（2年）	中学校、高等学校等の校長、進路指導担当者等
日野　修一	昭和商事株式会社	2023年6月1日～ 2025年5月31日（2年）	地域住民
伊藤　あけみ	専門学校坪内総合ビジネスカレッジ	2023年6月1日～ 2025年5月31日（2年）	保護者
錦織　澄	税理士法人錦織会計事務所	2023年6月1日～ 2025年5月31日（2年）	学校運営に関する専門家
金築　民男	松江総合ビジネスカレッジ同窓会	2023年6月1日～ 2025年5月31日（2年）	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
（例）企業等委員、PTA、卒業生等

（5）学校関係者評価結果の公表方法・公表時期
（ホームページ）
https://bijisen.sctg.ac.jp/

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

（1）企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業との連携にあたり、本校ホームページ等にて、教育活動や学校情報などに加え自己評価結果等を公表し情報提供している。公開授業や出前授業等で来校いただく機会を設け、アンケートの実施、意見交換などを行うことで本校の情報を提供している。情報提供することにより、企業等の関係者が本校についての理解を深めるとともに、学校がより実践的な学習の場となることを目的及び基本方針として位置付けている。

（2）「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
（1）学校の概要、目標及び計画	●建学の精神、学科教育目標、学年教育目標、特色 ●校長名、所在地、連絡先等 ●学校の沿革 ●その他諸活動に関する計画（年間行事計画）
（2）各学科等の教育	●入学者に関する受け入れ方針、入学者数、収容定員、社会人入試 ●カリキュラム（科目、単位、授業時数） ●進級、卒業の要件等（成績評価基準、卒業・修了の認定基準など） ●取得目標資格、検定 ●就職内定率、卒業後の進路（就職先）
（3）教職員	●教員氏名
（4）キャリア教育・実践的職業教育	●専門士の取得を目指す ●実習授業の実施(インターンシップ) ●就職支援等への取組み（企業・法人ガイダンス実施、企業等との連携による具体的な取り組み(インターンシップ)
（5）様々な教育活動・教育環境	●学校行事への取り組み状況（学園祭） ●課外活動（ボランティア活動、部活動）
（6）学生の生活支援	●学生支援の組織(クラス担任制) ●学生支援への取組状況（学生会館の整備）
（7）学生納付金・修学支援	●学生納付金の取扱い（金額、納入時期等） ●活用できる経済的支援措置の内容など（奨学金制度、教育訓練給付金制度、学支援制度、学校独自の各種減免制度）
（8）学校の財務	●収支計算書、貸借対照表
（9）学校評価	●自己評価、学校関係者評価の結果
（10）国際連携の状況	
（11）その他	

※（10）及び（11）については任意記載。

（3）情報提供方法

専門学校松江総合ビジネスカレッジパンフレット、学生募集要項、キャンパスガイドブック、ホームページ
https://bijisen.sctg.ac.jp/

授業科目等の概要

（工業専門課程IT学科Rubyエンジニアコース/モバイルエンジニアコース）2023年度入学生

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			テクノロジ・ハードウェア分野Ⅰ	テクノロジ分野関連知識の基礎を習得する。コンピュータ内部構造と各部の名称・役割についての基礎知識を習得する。	1前	45	3	○			○		○		
○			ストラテジ分野Ⅰ	ストラテジ分野関連知識の基礎を習得する。	1前	45	3	○			○		○		
○			マネジメント分野Ⅰ	マネジメント分野関連知識の基礎を習得する。	1前	30	2	○			○		○		
○			カラーマネジメントⅠ	色の持つ特徴を捉え、色彩選びに必要な知識を習得する。	1後	15	1	○			○		○		
○			C言語基礎Ⅰ	C言語を使い基本的な文法を習得する。	1前	30	2	○			○		○		
○			データベース技術Ⅰ	RDBの基礎知識・技能を習得する。SQLを理解でき、目的のSQLを作成できる。	1前	30	2	○			○		○		
○			WebデザインⅠ	ユーザビリティの高いデザインについて基礎知識を習得する。	1前	21	1	○			○			○	
○			総合実践Ⅰ	実践的なグループ開発で、実際の開発手法を習得する。	1前	30	2		○		○		○		
○			グループマネジメントⅠ	グループ作業に必要な情報伝達、マネジメント手法を習得する。	1前	15	1		○		○		○		
○			国家試験対策Ⅰ	基本情報技術者試験に向けた応用的な知識を習得する。	1後	16	1	○			○		○		
○			Ruby基礎Ⅰ	Rubyを使い基本的な文法を習得する。	1後	30	2	○			○		○		
○			制作演習Ⅰ	自らの発案した作品を制作することで、開発の流れを習得する。	1後	15	1		○		○	○	○		
○			JavaScriptⅠ	JavaScriptの基礎的な文法と動的なWebページの作成方法を習得する。	1後	15	1	○			○			○	
○			SPI対策Ⅰ	言語、非言語分野問題に対応できる知識を習得する。	1後	15	1		○		○		○		
○			データベース技術Ⅱ	RDBの基礎知識・技能を習得する。SQLを理解でき、目的のSQLを作成できる。	1後	15	1	○			○		○		
○			WebデザインⅡ	ユーザビリティの高いデザインについて基礎知識を習得する。	1後	21	1	○			○			○	

○			総合実践Ⅱ	実践的なグループ開発で、実際の開発手法を習得する。	1後	45	3		○		○		○		
○			企業体験実習Ⅰ	インターンシップ	1後	17	1			○		○		○	○
○			企業体験実習Ⅱ	インターンシップ	2前	17	1			○		○		○	○
○			グループマネジメントⅡ	グループ作業に必要な情報伝達、マネジメント手法を習得する。	2前	15	1		○		○		○		
○			WebデザインⅢ	HTMLとCSSを用いたWebページを作成する力を身につける。	2前	19	1	○			○		○		
○			国家試験対策Ⅱ	基本情報技術者試験に向けた応用的な知識を習得する。	2前	30	2		○		○		○		
○			jQueryⅠ	jQueryを利用した動的なWebページの作成方法を習得する。	2前	15	1	○			○			○	
○			PythonⅠ	Pythonの一般的なクラスやメソッドの知識を習得する。	2前	30	2		○		○		○		
○			制作演習Ⅱ	自らの発案した作品を制作することで、開発の流れを習得する。	2前	15	1		○		○	○	○		
○			総合実践Ⅲ	実践的なグループ開発で、実際の開発手法を習得する。	2前	45	3		○		○		○		
○			メディア制作Ⅰ	マルチメディアコンテンツの企画・制作をすることで、IT技術の多角的な活用方法を習得する。	2後	15	1		○		○		○		
○			LinuxⅠ	Linuxの基礎知識と各種コマンドの使い方を習得する。	2後	16	1	○			○		○		
○			JSPⅠ	JSPの一般的なアプリケーション開発方法を習得する。	2後	30	2		○		○		○		
○			WebデザインⅣ	jQueryを利用した動的なWebページの作成方法を習得する。	2後	21	1	○			○			○	
○			プレゼンテーションⅠ	テーマに応じた発表を行い、対象の良さを伝える力を身につける。	2後	15	1		○		○		○		
○			総合実践Ⅳ	実践的なグループ開発で、実際の開発手法を習得する。	2後	45	3		○		○		○		
○			卒業研究Ⅰ	各自でテーマを決め、ウォーターフォールモデルに沿って開発を行う。	2後	45	3		○		○		○		
	○		RubyⅠ	Rubyの一般的なクラスやメソッドの知識を習得する。	2前	45	3	○			○			○	○
	○		RubyⅡ	Ruby技術者認定試験合格に向けた力を養う。	2後	15	1	○			○		○		

	○		RailsⅠ	Railsを利用した基礎的な開発の知識を習得する。	2前	30	2	○			○			○	○
	○		RailsⅡ	Railsを利用して一般的なシステムを構築する力を身につける。	2後	45	3		○		○			○	○
	○		JavaⅠ	Java言語でオブジェクト指向言語の知識を学ぶ。	2前	45	3	○			○		○		
	○		JavaⅡ	JavaBronze試験合格に向けた力を養う。	2後	15	1	○			○		○		
	○		AndroidⅠ	Android向けアプリ開発の手順や基本的な知識を身につける。	2前	30	2	○			○		○		
	○		AndroidⅡ	Android向けアプリ開発の技術を身につける。	2後	45	3		○		○		○		
○			ビジネススキルⅠ	ジョブパス（B検）3級検定対策を行い合格を目指す	1前	15	1		○		○			○	
○			キャリア演習Ⅰ	自己分析能力や職業理解能力を習得する	1通	17	2		○		○			○	○
○			キャリア演習Ⅱ	キャリアデザイン能力や人間関係形成能力を習得する	2通	10	1		○		○			○	○
○			工業・社会Ⅰ	各種校内外行事	1通	25	2		○		○		○		
○			工業・社会Ⅱ	各種校内外行事	2通	15	2		○		○		○		
		○	実践ボランティア	ボランティア精神、主体性などを養う	1通	12	1		○			○		○	○
○			情報リテラシーⅠ	Excelを習得する	1後	15	1		○		○		○		
合計				48科目	2,080単位時間(70単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業条件:1700時間以上出席、62単位以上取得、卒業基準検定合格、学納金	1学年の学期区分	2期
進級条件:900時間以上出席、32単位以上取得、進級基準検定合格、学納金	1学期の授業期間	19週

（留意事項）

1　一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2　企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。